

磨かれたもの

紀美野町立野上中学校 3年 穂谷 早輝

私の中学校に行くまでの道は、美しいものであふれています。たとえば、日光に照らされた古い建物。大切に育てられたであろうチューリップ。ベランダで家族のために洗濯物を干す人。会社の制服を着て私より少し前を歩いている人。

でも、いちばんの楽しみは、その人達とのコミュニケーションです。「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」みんなよく声をかけてくれます。私も笑顔で応じます。

私がこんな風に思えるようになったのは、ある女性と出会ったことがきっかけです。

中学校に入学した頃は、それまでと通学路も変わり、ご近所さんでもあまり知らない人には少し硬いあいさつを返していました。ですが、この女性との出会いによって私は変わったのです。

中学校に入学してしばらくたった頃、下校中に笑顔の優しそうなおばあさんに声を掛けられました。「誰かえなあって思って声掛けたんよ。あんた、どこの子よ。」と聞かれ、答えると、より一層笑顔になり、あぁ！そうだったのかと合点がいったような表情で、とても喜んでいるようでした。それから、登校中によく出会うようになり「おはようございます。」と言いながら頭を下げるようになりました。

ある日、そのおばあさんの話を母にすると、母はそのおばあさんは耳が聞こえにくいのだと教えてくれました。確かに、あいさつをあまり返してもらったことがないかもしれない、とそこで初めて気づきました。その日から、自分なりにどんな風にすればコミュニケーションが取れるのか考えるようになりました。

初めに、なるべく大きな声であいさつをしてみました。しかし、なかなか気付いてもらえず、次に、ジェスチャーを取り入れてみようと考えました。これだと、おばあさんの視界に入ることができればきっとコミュニケーションが取れるだろう、そう確信しました。実際に手を高く上げて振ると、おばあさんも気がつき、嬉しそうに手を振り返してくれました。それからおばあさんを見かける度、大きく手を振るようになりました。

しばらくたって、私は下校中におばあさんに会いました。おばあさんは草を抜いているところでした。声を掛けると「いつも話しかけてくれてありがとう。おばちゃん、涙出そうやわ。」と言ってくれました。そして、実は耳が聞こえにくいのだということも言ってくれました。私は、今まであいさつをしてこんなにも喜んでもらったのは初めてでした。そして、あいさつをただけなのにこんなにも心が舞い上がるほど嬉しくなるのだと自分でも驚きました。

しかし、その後、冬の間はおばあさんに出会えず、家の前を通る度、今日も会えなかったな、明日は会えるかな、と思っていました。ある日、今日も会えないのだろうかと思いながら家の前を通りかかると、「お、久しぶり。元気にしてたか？」という声が聞こえてきました。また出会えると思っていたので、嬉しくて思わず目を見開いた感覚を今でも鮮明に覚えています。そして、いつもしていたように手を高く上げてうなずきました。おばあさんも手を振り返してくれました。ここでようやく私は気付きました。おばあさんは、私が手を振ったら当たり前のようにいつも手を振って応えてくれている。これって実はすごいことなのではないか。以前からあいさつをしていたからこそ久しぶりに出会っても会話ができるのだ。そう思うと、おばあさんと再会できたことがとても嬉しく、同

時に、高校生になるとこの道はほとんど通らなくなる
んだったなど、とても寂しい気持ちになりました。

私は、おばあさんと出会って、たくさんのことを学
びました。あいさつをする人との距離が縮まり会話が
生まれるのだということ。あいさつは返されると嬉し
いのだということ。これまで、道徳の授業などであい
さつの大切さについて聞いたことはあったけれど、そ
れをさらに強く実感しました。このできごとがあっ
てから、私は誰に対しても笑顔であいさつをするよう
に心がけるようになりました。

私は、以前、「人は人からしか磨かれない」のだと
職業体験学習でお世話になった企業の方に教わりまし
た。そのときは、意味がよく分からなかったけれど、
今ならその意味が分かるような気がします。

私はおばあさんとの出会いを通して磨かれたのだ。
だから、登下校中の何気ない景色が美しく見えるので
す。

今日はどんな景色に出会えるのだろう。楽しみにし
ながら今日も歩いています。